

日本聖公会 神戸教区報

# 神のおとずれ

2011年  
7月号

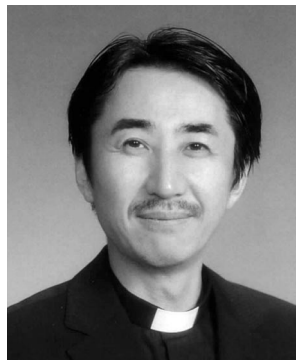
発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者  
司祭 芳我 秀一

印刷所  
文明堂印刷所

## 賜物を用いましょう

司祭 シモン 原田 佳城



### 二つの大震災から

1995年関西を襲った阪神淡路大震災の時、全国各地からの救援ボランティアが各被災教会に入り、支援活動を行ったのは多くの方の記憶に残っています。

私と東北教区・越山健蔵司祭との出会いは、今から25年前のウイリアムズ神学館で、彼が39歳、私が29歳の時でした。同期の私たちは、それぞれ社会人を経験した後の学生生活で、お互い気が合い、じっとしていられない性質も似ていました。しかし、卒業後の交流は、教区が遠く離れていることもあり、年賀状のやりとりと、数年に1度、会議で顔を合わすぐらいでした。

そのボランティアの一人として、越山司祭も被災地で奉仕されました。彼は、当時高校生であった息子の哲也君（現在、東北教区司祭）の後方部隊として、故田崎東北教区主教の指令を受け、ライフラインが復旧していた大阪教区芦屋聖マルコ教会に入り、約1ヵ月間、ボランティア活動に励まれました。活動内容は炊き出し、賄い、時には傾聴ボランティア。最近、直接聞いた話によると、芦屋から約20キロ離れた神戸教

区神戸聖ヨハネ教会まで、自車で炊き出しを運んだそうです。彼は、私と何処かで出会えるか？と思っていたらしいのですが、残念ながら一度も会うことはありませんでした。

久々の再会は、今年3月末、越山司祭が牧師として働く福島県いわき市小名浜の小名浜聖テモテ教会・幼稚園でした。震災後早い段階で、近隣住人施設への支援活動をスタートさせていた彼から、「HELP」の要請があり、中村教区主教と

教会委員会から許可を頂き、教区内各地からの救援物資を車に積み、被災地へ向かいました。16年前の彼同様、ボランティアのための賄いと救援物資配付の奉仕で、あっという間に2週間が過ぎました。

あれから3ヶ月、日本聖公会管区、各教区からの救援活動も組織化され、盛んになってきています。

一見、救援活動も順調にすすんでいるかのように見えますが、福島県内の教会・幼稚園に関し

ては、今なお余震が続くなか、復旧事業の遅れ、原発事故の深刻な影響など、私たちの手に負えない問題が山積し、大変危惧しています。

4月中旬からは、京阪神の聖公会各教区が北関東教区日立聖アンデレ教会をベースに支援センターを設置し、多方面に亘り支援活動をしておりますが、まだまだボランティアが足りないようです。

神戸教区事務所だより・アンデレ便り6月号に、中村教区主教は「慈愛の手を差し伸べてください」として、教区内聖職と信徒にボランティア参加を促しておられます。今後は、各被災地それぞれの状況にあった個別の活動が求められ、救援の仕事は多岐に亘るでしょう。

### キリスト者として

マタイによる福音書25章40節「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」

弱く、小さき人々、困難にある人々の中にキリストがおられる、という福音は、マザー・テレサをはじめ多くの人が、困窮に苦しむ人々の中に、「キリストとの出会いを体験した」と、明言していることから明らか

です。それは特別に大きなことではなく、わたしたちの身近な体験にも通じることではないでしょうか。わたしたち自身も、自分の貧しさや苦しみの中にあって、キリストの存在を感じた、という経験があるのではないのでしょうか。

震災後、「私に何ができるだろう？」と自問している多くの人の姿がテレビに映し出されました。ボランティア精神が、16年前の阪神淡路大震災の時より普及し、ボランティアの体系も確立してきたのでしょうか。16年前の「恩返し」という単純で素朴な良心もあります。

しかし、そのような一般的社会常識、良心の枠を超え、キリスト者にはより積極的な道、つまり、苦しむ人、悲しむ人の中にキリストを見、手をさしのべ、その人と共にいる、という道が示されているのです。それは、十字架にかけられたキリストの故にです。

ボランティア奉仕の形は様々です。各人の賜物に応じた奉仕の形が必ずあります。私に示された物は何か？を見つめ、愛の業を実行するのが今この時ではないでしょうか？

(明石聖マリア・マグダレン教会牧師)

# 東日本大震災関連情報

## 京阪神聖公会 第Ⅰ期プロジェクト 日立ボランティア センター活動の 振り返り

3. ボランティア参加者  
ボランティア登録をされた参加者は約百名。また北関東、東京、横浜教区などから日帰りで同センターの活動に多数参加された。

### 振り返り

#### 1. センター指導者

##### ① 神戸教区

4月25日(月)～5月20日(金)

瀬山会治司祭を派遣。

##### ② 大阪教区

5月20日(金)～6月10日(金)

岩城聰司祭、木村幸夫司祭を派遣。

##### ③ 京都教区

6月10日(金)～30日(木)

藤原健久司祭を派遣。

#### 2. 主なボランティア活動

##### ① いわき市災害ボランティアセンター登録の活動。

- a. 瓦礫清掃、泥掻き等。
- b. 傾聴ボランティア。

##### ② 避難者、現地の幼児たちを対象とした「お菓子屋台」、「足湯」等の支援イベント。

##### ③ 聖公会関係の教会・幼稚園、信徒宅の屋根などの応急修理。

##### ④ 支援物資、仕分、配布。その他。

#### 4. 第Ⅰ期プロジェクトの終了

日立聖アンデレ教会を拠点とした第Ⅰ期プロジェクトは、予定通り、6月30日(木)に終了し、日立ボランティアセンターは、同日、午前10時30分の感謝聖餐式をもって閉鎖する。

## 京阪神聖公会 第Ⅱ期プロジェクトが スタートします

### 目的

京阪神3教区が一致協力して、日本聖公会東日本大震災被災者支援組織「いっしょに歩こう!プロジェクト・いわきオフィス」運営に参画し、いわき地域の被災者のために活動する。

#### 1. 第Ⅱ期プロジェクト

2011年7月1日(金)から2012年6月30日(土)の1年間。

#### 2. 聖公会いわきボランティアセンター

##### ① 場所

平聖ミカエル会衆集会所  
〒970-8026  
いわき市平字六間門1

携帯電話

080-4249-5469

FAX

050-3682-2870

##### ② センター長

越山健蔵司祭(東北教区)

##### ③ 調整者

i. 現地調整者

3教区が交代で、調整者1名を派遣する。滞在期間は1ヶ月以上。

ii. 京阪神教区調整者

3教区：中村 豊主教

京 都：藤原健久司祭

大 阪：木村幸夫司祭

神 戸：大東正人(主事)

##### 3. ボランティア派遣

各教区調整者が募集し、センター長が調整の後、派遣する。

### 被災地からの手紙

#### ボランティアさんに感謝

小名浜聖テモテ幼稚園

主任 齋藤 明美

福島県いわき市小名浜は、東



越山健蔵司祭と小名浜聖テモテ幼稚園の先生方。  
右から2番目の方が主任の齋藤明美先生。

北の湘南といわれるほど一年中気候は穏やかで、夏はサーフィン、海水浴で賑わいます。また漁業の盛んな街でもあります。しかし、3月11日の、あの日以来、全てが一変しました。午後2時46分、未曾有の大震災、大津波が東日本を襲いました。小名浜も例外ではなく、沿岸部を中心に甚大な被害を受け、多くの方が犠牲になりました。水道も市内全域で断水、道路も各所で陥没しました。翌日、福島第一原子力発電所で水素爆発が起こり、少しでも遠くに離れようと、市内の多くの方々が街を離れていきました。街は人気のないゴーストタウン

ン化し、不気味なほど静かでした。風評被害で、いわき市に近く人や物が全く入って来なくなり、ガソリンや飲料水などが枯渇し、生活に大きな支障が生じました。

これから先どうしようかという時、まずは神戸教区から、後に京阪神聖公会日立支援センターの力強いご支援を賜り、元気をいっぱいもらいました。

どんどん運び込まれる物資の荷受、仕分け、配送、また沢山のボランティアに対する賄いと、支援してくださる聖職・信徒の方は、作業服やエプロン姿で、不自由な環境の中で寝食を共にし、各避難所を訪問してくださいました。心のケアを兼ねての活動、大変なご苦労だと思えます。

そんな苦境の中でも、いつも私達の事を気にかけて下さったことを感謝いたします。

またこの支援があったおかげで、心とお腹を満たし、命をつないだ思いでいっぱいです。

まだまだ重苦しい毎日が続きますが、いつの日か本当に大丈夫という日を願って、前に向かって一歩一歩進んでいこうと思います。

# 東日本大震災ボランティア参加報告

## 被災地ボランティア報告

セバスチャン 浪花 朋久

3月27日(日)から4月5日(火)まで、小名浜聖テモテ教会、仙台基督教会、西の平聖パウロミッシェンなどを拠点に、物資運搬・清掃活動などを行いました。

小名浜聖テモテ教会では、3日間のみの活動でしたが、地震・津波被害だけでなく、報道以上の放射能の脅威が現地にはありました。

また、仙台市街地はガスやガソリンの復旧は遅れながらも、繁華街のお店は営業時間制限などして再開しつつありました。物資も徐々に普及し、足りないものはマン・パワーではないかと思われま

す。今回のボランティアに参加するにあたっては、「的確な現地の情報を知り、現地入りすること」、またボランティア自身の肉体的・精神的疲労の危険を避けるため、「活動期間の目処を立てること」、「睡眠と食事の重要性」についての注意がありました。これらはボランティア活動をを行う上で大切なことだと思います。

(ウィリアムス神学館在学学生)

## 拡がるボランティアの輪

京阪神聖公会

日立ボランティアセンターの立ち上げに参加して

ダビデ 永田 弘之

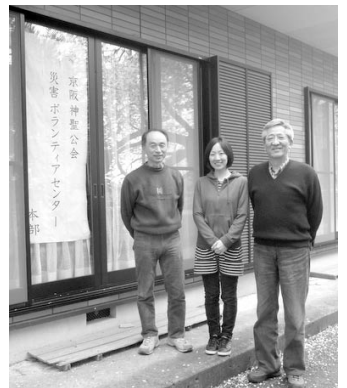
急な要請で、4月18日(月)から22日(金)までの5日間、予備知識も持たないまま、日立ボランティアセンターに行ってみりました。

現地に入って、我々がやるうとしたことは、いわき市の社会福祉協議会からボランティア活動の現状を聴き、どのような事が求められているか、また避難所の実態を把握し、地元のボランティアを紹介してもらう事などでした。

しかし、社協との話は、なかなか進まず、連絡待ちの状態が



日立聖アンデレ教会の屋根修理をする、永田 弘之兄(右)、佐伯 誠兄(左)



日立ボランティアセンター立ち上げにあられた、永田兄(左)、中村由香里姉(中)、佐伯兄(右)

続き、いらいらさせられるばかりでした。その間、日立聖アンデレ教会と附属幼稚園の被害状況を調べたり、雨漏りの応急処置などをするうちに、予定の日程は過ぎていきました。結局、不完全燃焼のまま帰らざるを得なかったのです。

ただ、実際に小名浜の惨状を目の当たりにし、聖テモテ教会の方からお聞きした、地震直後の衝撃的な話など、帰広後、教会で報告の機会を頂きました。それにより、早速ボーイスカウトの一人(高校生)からボランティアの申し出があり、5月の連休に日立の方で活動をしました。

また、夏休みにも参加を希望しているスカウトもいます。また、教会信徒の方々の参加も得られました。

現在の日立ボランティアセンターの活動は、教区を超えて大きな輪が拡がりつつあります。今回の被災地での私の活動は

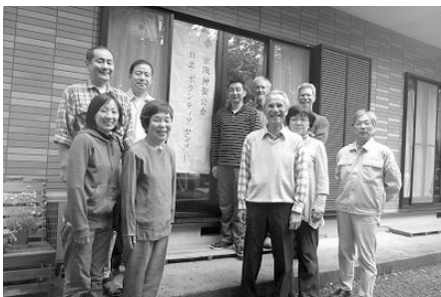
十分ではありませんでしたが、実際に現地で見聞きした事を話し続けることに意義があるのだと実感しています。

(広島復活教会信徒)

## ボランティアに参加して

アグネス 伊藤 節子

3月11日以来、毎日、テレビの映像から被災者の皆さんに思いを馳せ、自分にも出来る方法で、少しでもお力になりたいという思いが募っていたところ、日立に京阪神聖公会のボランティアセンターが立ち上がったとの



前列、左から2番目が伊藤 節子姉。最初に参加した時のボランティア・メンバーと共に。

報を知り、直ぐに傾聴ボランティアに応募しました。最初、5月9日(月)から13日(金)、私が行った小名浜地区は、二ヶ月の間に瓦礫の片付けも幾分進み、避難所に残っておられる方達も少人数になっておられる方、方の方は働きに出ておられるか、子供たちは学校で、その方達の悩みは、今後の生活の見通しが立たない不安でした。

二日間で十二、三名の方とお話ししましたが、私の予想とは違って、よく働いたという実感が余りありませんでした。5月30日(月)から6月3日(金)まで、再度伺った時には、現場の重労働に挑戦してみました。非力ではあっても、それなりに出来る作業はあるもので、今度は本当にお役に立てたかなという達成感を得られて帰って参りました。

行くまでは、皆さんの足手纏いにならないかと、一抹の不安をもって行きましたが、そうはならなかった事で自信を持つことが出来ました。82歳の私でも出来たのですから、高齢でも体に自信のある方なら、遠慮せず、参加されたら良いのにと思いました。

復興には、息の長い支援が必要とのことですから。(広島復活教会信徒)

# 二〇一一年教役者修養会報告

広報部 司祭 マルコ 藤井 尚人



6月7日(火)～9日(木)、教区教役者修養会が、初夏の大山(米子市)を会場に開催されました。開会礼拝の後、教区主教アワーでは、教区主教から、主に東日本大震災のボランティア・センター活動について報告がなされました。

その後、多井 剛兄(神戸聖ミカエル教会信徒)から「暗黙知を言葉にすることは大変重要なことである。各教会が宣教についての知恵を産み出すことのできる『場』の創造ができることを願っています」と、今夏、7月18日(海の日)に開催される神戸教区宣教協議会の運営方法についての説明がありました。

翌日は、精神科医の後藤素規兄(大阪教区信徒)を講師にお迎えして、①心を病んでおられる方への接し方。②牧師自身の心のケアについてのお話しを伺いました。

「わたしの父の家に住むところがたくさんある。(ヨハネ福音書14章2節)」の聖句をテキストに、「神が人間に保証したのは、約束の地・安息の地、つまり絶対的な居場所である。人間の最大の悲痛とは、帰ってゆくべき居場所がないこと

であり、昔、お寺の境内が精神病院の原型であったように、宗教者は心を病んでいる人を精神科に売り渡すようなことはしないで欲しい」と、教会・牧師の役割を確認された後、「自分の心のケアをするとは、自分で自分を理解する言葉を持つことである。現実から逃げることなく、自分の本当の姿を見つめることにより、悲しみは深くなるのであるが、実はそれが安心につながる。

カウンセリングとは、現実を正しく言語化できる能力であることを知っておいて頂きたい」と牧師自身の心のケアへのアドバイスを語られました。

自由時間は、大山散策、釣り、境港聖心幼稚園訪問、鬼太郎ロード散歩と、それぞれが自由な時間を過ごし、夜の親睦会を通して、それぞれが遣わされている場所、また、新しく歩き出す英気を養うことができました。

「患者さんとの面談の目的は、私はここにいていいのだ、あなたとなら一緒にいてもいいよ」と感じてもらうこと。信頼されなくなったら精神科医の仕事はそれで終わり」という後藤医師の言葉は、そっくり、そのまま教役者一人一人に当てはまる言葉であるということを感じた。このできた今年の修養会でした。(神戸聖ヨハネ教会牧師)

## 収穫感謝献金への御礼

浜田キリスト教会 礼拝堂屋根塗装工事完了

司祭 マルコ 平野 一郎



浜田キリスト教会の礼拝堂は、築後40年が過ぎました。1999年夏に屋根の葺き替え工事を行なってから、約12年経ち、礼拝堂屋根は段々と老朽化して、色が褪せてきて、雨漏りの危険も生じてきました。浜田キリスト教会としては、この屋根の劣化を防ぐために、屋根塗装工事(屋根水洗い、屋根下塗り・上塗り、クラック補修、仮設足場など)を実施することになりました。

総工費は190万円でしたが、その内、教会自己資金が50万円で、140万円を、2010年度の収穫感謝献金として、皆様からお献げ頂くことになりました。本当にありがとうございます。牧師及び信徒一同、心から感謝申し上げます。

塗装工事は、5月上旬に着工し、同月末、無事に完了しました。

なお、屋根の色については、塗装工事前は赤色でしたが、教会の皆さんと改めて相談した結果、隣接するバルナバ保育園の屋根に塗られている色と同じ色で統一したいという希望から、青色に決めましたが、青空のようにとでも綺麗に映えています。感謝して、ご報告させていただきます。(浜田キリスト教会牧師)

○7月10日(特定10) 聖霊降臨後第4主日 「海の主日」  
○8月7日(特定14) 聖霊降臨後第8主日 「日本聖公会青年活動のための日」  
※右主日をお祈りに覚えて下さり、当日信施金を管区にお献げください。

「耐震補強工事」が行われまして、この機会に少し「夢の話」をさせていただきます。

昨年、神戸聖ミカエル大聖堂では、今後50年の安全を期して「耐震補強工事」が行われまして、この機会に少し「夢の話」をさせていただきます。

（広報部）

### 話の始まり

昨年、神戸聖ミカエル大聖堂では、今後50年の安全を期して「耐震補強工事」が行われまして、この機会に少し「夢の話」をさせていただきます。

「大聖堂」と呼ばれるものは、イギリス始めヨーロッパには沢山ありますが、その建築には、いずれも相当の工事期間を要したようですし、現在でも、スペインのバルセロナで建築中のサグラダファミリア（聖家族教会）の事は有名です。

そこで「夢の話」です。この様な教会の建築が実際に何年か

かかるのかわかりませんが、とにかく一歩を踏み出さなければ何事も進みません。「その一歩を踏み出しませんか」と云うのがこの提言の趣旨です。

これに就きまして、私なりの少しの思い出話をお許し下さい。私は元々京都教区の出身で、こちらにお世話になったのは、もう50年位前からですが、その頃どういふことか、松蔭女子学院の平島達司先生と親しくして戴きました。

「荻原さん、今度、六甲に移

## 大聖堂 夢の提言

ヨハネ 荻原 一輝

転する松蔭大学にパイプオルガンを置きたいと思いますがどうですか。」と云われて、一瞬何の事かわからなかった事を覚えています。

パイプオルガンは、今ではそれ程珍しくないでしょうが、当時は私の知る限り、同志社大学の栄光館にあるだけで、毎年12月になると恒例の「メサイヤ」が公演され、学生時代からその切符の入手に努力した記憶があるぐらいの高額の花でした。

とに角、そのような高価な物を設置する夢を持っておられ、その実現にヨーロッパを回られ、ついに今日に至ったと聞いています。

平島先生は、その後早くにお亡くなりになり、私は設置に至るまでの御苦労の話、その為の資金集めのこと等を伺う機会を失しました。

今度の提案は、これに比べるべくもなく大きい話と思います。しかし、私は平島先生から始めて伺った時の驚き、そしてそれ

が実現した事実を目の前に見せて頂いた事を思い出しております。

### ヒト

そこで取り敢えず、私が今見ている夢、現在私が考えている、大聖堂建築の為の「ヒト、モノ、カネ」について述べてみたいと思います。

まず、「ヒト」です。先にも書きました様に、大聖堂は一日にして成りません。それは今か

ら何年で完成と予定してかかれるものでもないでしょう。つまり、今生きている人は誰も、その完成を見る事が出来ない位と取り敢えず云っておきましょう。

近い所では、我が国のお城はその完成に何年もかかっていますし、大きいお寺もそれなりに年数が掛かっている様です。今の段階では、完成の日を具体的に予想するのは無理なように思います。

### モノ

次は「モノ」です。これはともかく、現在地に造るとして、その総面積（勿論今の教区会館、牧師館も含め）はどれ位で、現在の建築基準法で許される最大建蔽率、容積率を調べる必要があります。

これは許される限り、出来るだけ大きい方が良いでしょう。夢は大きい方が良いでしょう。そして、これで収容人数がどの位のものが出来るか位は考えておいてよいでしょう。

少なくとも神戸教区の大礼拝、できれば日本聖公会の大礼拝を予想して、その後の会館も考えられたら最高ですね。勿論事務所も牧師館（主教、主任牧師、補佐牧師等）もと夢は膨らみます。

### カネ

さて、最後に残るのはオカネの話です。これは私の様な者が考えても何億円単位、もう一つ零が加わるかも知れません。この辺が夢の話です。

先の耐震補強費用は約6500万円との事で、準備金と募金で賄われたようですし、本来教会の建築費は献金で賄うものだろうと思いますが、正直な所、毎年の必要経費でも大変な上に、この様な大金の話どころではないでしょう。（だから最初から夢の話とお断りしました。夢の様な話でなく夢その物の積りで題名を考えました。）

これに就いては、わが国でも古来幾つもの先例があります。それは、仏教で行われる托鉢であり、写経をしてこれを納める時に幾らかを寄付する、あるいは、最近甲子園の再建の時のように煉瓦に名前を入れて幾らかを納入する、また、瓦に名前を入れて貰ってお金を納める等々の工夫があっても良いのではないのでしょうか。

ここまで書くといささか脱線気味ですので、この辺で筆を置きます。

（神戸聖ミカエル教会信徒）

7月の教区関係教役者  
逝去記念聖餐式

日時 2011年7月7日(木) 午前10:30  
場所 神戸聖ミカエル大聖堂  
司式 主教 中村 豊  
説教 司祭 平野 一郎

\*7月の記念逝去教役者\*

1日	司祭	ロバート	コールマン
3日	伝道師		小川 淳一
5日	司祭	レジナルド	セイバリー
6日		フレデリック	ウォーカー
11日	伝道師	マリア	横田 キヨ
12日	修女	ユニケ	岡上 千代
14日	司祭	パウロ	中村 弘
15日	宣教師	オクタビア	ジュリアス
15日	司祭	ウイリアム	リチャーズ
20日	司祭		広瀬 健介
21日	宣教師	ドロシー	ケース
27日	宣教師	ルイズ	ガルゲー

鳩だより 《敬称略》

教籍移動

5月6日(金)  
マタイ 八代 正敦  
ヘレナ 八代 敬子  
神戸聖ミカエル教会より  
東北教区福島聖ステパノ教会へ

5月6日(金)  
マグダラのマリア

赤木 幸子  
赤木 聡仁  
赤木 君禎  
神戸聖ミカエル教会より  
大阪教区石橋聖トマス教会へ

一 聖婚

5月22日(日)  
パウロ 野木 佳孝  
フランチェスカ 穂鉄 樹絵  
神戸昇天教会

ご逝去

5月2日(月)  
アンナ 木村 香子(80才)  
洲本眞光教会

広島伝道区

◎広島復活教会

5月15日(日) 聖モニカ礼拝堂・幼稚園で活動しているガール・スカウト、ボーイ・スカウトを招待して、スカウトのための礼拝を行った。お話しは、日曜学校の先生が行い、信施金はスカウト活動のために献げ、スカウトたち、リーダーたちが司祭から祝福を受けた。  
礼拝後、婦人会が作って下さったハヤシライスを支カウト達に振舞った。

山陰伝道区

◎鳥取聖ルカ教会

5月8日(日)、野外礼拝を岩美海岸近くにあるエリザベス・サンダースホームの創設者・澤田美喜さんの別荘で行いました。鳥取はご主人・廉三氏の故郷で、ここに別荘が建てられ、ホームの子どもたちも夏になると大勢遊びに来たと言われています。

当日は天候にも恵まれ、爽やかな五月の風が吹き抜ける中で聖餐式が行われ、また、別荘を管理されている油浅郁夫氏より澤田美喜さんとの関わりについてお話を伺いました。その後、昼食をいただき、山陰の美しい自然に触れながら親睦を深めました。



故澤田善喜さんの別荘にて野外礼拝

◎米子聖ニコラス教会

5月29日(日)、ガールスカウト鳥取県第3団の創立40周年記念礼拝が、米子聖ニコラス教会の聖堂で行われ、約80名が出席されました。

式後、会場を良善幼稚園に移して、今年度2度目の入団式が行われ、5名のスカウトが新たに加わりました。

祝賀会では、スカウトや保護者の方々が作られたケーキやクッキーなどで来賓を歓迎し、プロジェクターで、最近行われた自然保護や日韓交流などの主なスカウト活動の紹介もありました。

第48回神戸教区中高生大会

テーマ: 「つながり」  
講師: 井上 進次司祭(プール学院中高チャプレン、大阪教区尼崎聖ステパノ教会副牧師)  
日時: 8月16日(火)~19日(金)  
会場: 徳島県立牟岐少年自然の家  
大会長: 瀬山 匠(徳島インマヌエル教会)  
会費: 1万円  
申込み: 所定用紙に記入し、各教会から一括申込み。  
申込締切: 7月26日(火)

広島平和礼拝2011のご案内

『ともに学び、行動し、祈ろう。そして一歩前へ』  
~平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。~  
(マタイ福音書 5:9)

日時: 8月5日(金)~6日(土)  
会場: 広島復活教会  
被爆証言: 佐伯啓子姉(広島復活教会信徒)

目的: 1. 原爆犠牲者を追悼し、世界平和のために祈る。  
2. 時代を担う人たちに原爆の悲惨さ、戦争の愚かさを伝える。  
3. 「主の平和」を学び、その実現のために活動する。  
行事: 祈りの集い、平和行進、平和祈願ミサ、碑巡り、資料館見学。  
参加費: 無料(日程中の食事、簡易宿泊)  
自己負担: 交通費、ホテル宿泊、5日夕食など

お問い合わせ・お申込みは、広島平和礼拝実行委員会事務局まで。申込締切: 7月12日(火)  
(日本聖公会神戸教区 広島復活教会 〒730-0014 広島市中区上磯町10-11) TEL: 082-227-1553 FAX: 082-227-0818  
E-Mail: kobayashi@hpps.web9.jp 「広島礼拝ホームページ」 <http://hpps.web9.jp/>